

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 |
|------|-------|-------|---|---------------------|-----------------|
| 小学部 | (1) | ア | 個別面談や保護者会, 毎日の連絡帳などを通し, 児童や保護者の教育的ニーズを十分に把握し, 医療機関・福祉機関との連絡ノートやケース会議等を有効に活用して連携を図り指導に生かしていく。 | 1-② 2-①② 4-③④ | |
| | | イ | 個別の教育支援計画や指導計画の作成, 学年会・グループ会・合同授業の話し合いなどを通じた教職員の共通理解のもと, 個に応じた指導の充実に努める。(教科の内容・系統性を踏まえた指導, 教材教具の工夫, 学習の個別化と教員の連携を図ったT・T指導の充実, 自立活動メニュー表・ICTの活用など) | 1-①② ③④ | |
| | (2) | ア | 教室や廊下, 教材室(教材置き場)などの生活環境の整理・整頓・清掃・清潔に努め, 安全で健康な学校生活が送れるようにする。 | 2-①②③ | |
| | | イ | 連絡ノートや外部専門家相談の活用, 連絡協議会等を通して, 保護者や医療機関, 各施設や計画相談員等と連携を図りながら, 健康で安全な学校生活が送れるようにする。(摂食指導の連携, 健康状態の把握, 自立活動の指導・緊急時の対応など) | 2-①② 4-③④ | |
| | (3) | ア | 児童一人一人を認め, 自信や自尊心を育んだり, 様々な体験学習を通して感性を引き出したりできるよう, 指導方法を探求する。 | 1-② 4-② | |
| | | イ | 各種交流活動や合同学習などへの積極的な取り組みを通し, 人とかかわる力や豊かな心を育成する。(地域交流, 学校間交流, 居住地校交流, さわやかマナーアップ運動, 花いっぱい活動, なかよしタイム(異学年交流), 他学年などとの合同学習, 交流給食など) | 3-①② ③④ 4-② | |

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|------|-------|--|--|--------------------|-----------------|--|
| 中学部 | (1) | 生徒一人一人の教育的ニーズを的確に把握するとともに、個に応じた指導内容や方法を工夫し、授業改善に努める。 | 個別面談や家庭訪問、連絡帳等を通して保護者との連携を図ったり、連絡ノート等を活用して医療機関や福祉機関などとの連携を図ったりしながら、一人一人の教育的ニーズを的確に把握する。 | 1-①② 4-①②③ | | |
| | | | 個別の教育支援計画と指導計画に基づき、学年会やグループ会等を通じて教職員が共通理解を図りながら、日々の授業作りを工夫し、改善に努める。(系統性を踏まえた指導、略案作成、ICTの活用、T・T指導の充実など) | 1-③④ 3-② 4-③ | | |
| | (2) | 健康で安全・安心な学校生活を送れるように環境を整えながら、健康の維持、体力の向上に努める。 | 常に整理・整頓を心がけ、学習や活動しやすい環境整備に努める。(教室・グループ室・廊下などの清掃・整理・整頓) | 2-①②③ ④ | | |
| | | | 生徒の実態を十分に把握するとともに、保護者や主治医・看護職員・養護教諭との連携を図りながら、個に応じた学習や活動を工夫し、実践する。 | 1-①② 2-② 4-③ | | |
| | (3) | 一人一人の良さを認め合い思いやりの心を育みながら、主体的な生活態度の育成に努める。 | 教育活動全般を通して社会生活のルールやマナーを意識させるとともに、自主的・主体的な活動場面を設定する。(学級活動、専門委員会、児童生徒会、進路を考える週間、休み時間) | 1-④ 3-③⑤ 4-① | | |
| | | | 集団活動において人とのかかわりを深めるとともに、経験を深め広げられるような学習内容・活動の充実を図る。(遠足、修学旅行、校外学習、交流及び共同学習など) | 3-①②④ 4-②④ | | |

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|------|-------|---|--|---|-----------------|-------|
| 高等部 | (1) | ア | 個別面談や相談の中で、生徒一人一人の教育的ニーズや進路指導上の課題を把握し、卒業後の自立と社会参加のため保護者と連携し、個別の支援計画・個別の指導計画・個別の移行支援計画を策定し支援に努める。 | 1-①② | | |
| | | イ | 個別の支援計画・個別の指導計画に基づき、課題を明確にして、指導内容の整理や支援について共通理解を図る。また、学習グループ会、学年会、学年主任会の連携を図り、進路体験実習、その他の教科や合わせた指導・自立活動との関連性を高め、効果的な指導を行う。 | 1-①②③ | | |
| | (2) | ア | 教室、グループ室、廊下等の生活環境の整理整頓・清掃を心がけるとともに、教材教具の点検を実施し、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。 | 2-① | | |
| | | イ | 一人一人の生徒の実態を十分に把握し、支援方法についての共通理解を図る。また、保護者や医療機関、養護教諭、看護職員と連携を図ることで、個や状況に応じた学習や活動を工夫し、健康や体力の維持・増進に努めていく。 | 2-② 4-③ | | |
| | (3) | 自己肯定観を育むとともに、他者の良さを認め、思いやる等の豊かな心の育成を図る。 | ア | 自己選択・自己決定の力を高める指導を重視し、学習場面及び学校生活全体を通して、様々な場の設定をするとともに、主体的に活動する時間を設定していく。また、実生活に結び付く体験学習を通して、成功体験を積み重ねることで、主体的に生きていこうとする態度の育成に努める。 | | 3-①②③ |
| | | | イ | 様々な交流活動や集団活動の場の経験を通して、集団生活のルールやマナー、自己と他者とのより良い関係作りを意識できるような内容・活動の充実を図る。 | | 3-①②③ |

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|------|-------|--|--|-----------------------|-----------------|--|
| 訪問教育 | (1) | 児童生徒一人一人の実態把握に努め、能力を引き出すために、個に応じた指導のあり方を工夫するとともに日々の学習の充実を図る。 | ア 児童生徒や保護者の教育的ニーズを十分に把握し、個に応じた指導内容・方法や教材教具の工夫を図り、個別の教育支援計画の実践・改善・充実に努める。(担当者会議・他校との情報交換など) | 1-①②③ 3-③⑤ 4-③ | | |
| | (2) | 健康や安全に配慮しながら授業を行い、児童生徒の健康や体力の維持・増進に努める。 | ア 保護者からの聞き取りや状態の観察等で、訪問時の体調を的確に把握する。(毎日の健康観察の様子を記録しておく) | 1-①②③ 2-①②③ | | |
| | | | イ 必要に応じてリハビリの際に同席するなど医療機関と連携を図り、日々の授業の参考とする。 | 1-①②③ 2-①② 4-②③ | | |
| | (3) | 訪問担当者間や所属学部学年との連携を図り、共通理解のもとでスクーリングや映像での交流を行い、友だちや集団を意識できるよう努める。 | ア 訪問担当者打ち合わせや学部会等で訪問教育生の実態や近況の報告・連絡・相談をし、理解を深める。 | 1-①②④ 2-①② 3-③ | | |
| | | | イ 学年やグループへのスクーリング参加については、事前に所属学年と密に連携を図りながら、児童生徒の健康状態を的確に把握し、安全に十分配慮して実施する。(入学式・卒業式・文化祭・学部行事等) | 1-①②③ 2-①② 3-③ | | |

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|------|-------|---|--|-------|-----------------|--|
| 1年 | (1) | 児童一人一人の実態を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。 | 個別の教育支援計画・指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた授業の充実を図る。教材・教具の工夫やICTの活用による教育活動を図る。 | 1-①②③ | | |
| | | | 各グループ・学年の学習の経過や結果を、学年会で情報交換し、支援方法等の共通理解を図る。学習の記録を行い、個々の目標や課題解決に向けた指導・支援を行う。 | 1-②④ | | |
| | (2) | 学校生活のリズムを身に付け、健康で安全な生活を送ることができるようにする。 | 登校時に検温・パルス測定や表情の観察等で児童の体調を確認したり、保護者からの聞き取りや連絡帳等で連携を図ったりしながら、児童の体調や排せつや睡眠等の生活リズムを適切に把握し、健康で安全な学校生活が送れるようにする。 | 2-② | | |
| | | | 保護者や医療機関、関係機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持や身体の動き、摂食等の支援方法の充実を図る。また、医療的ケアについては、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。 | 2-①② | | |
| | | | 児童が安全、健康に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整え、安全面に配慮し、安心して学校生活を送ることができるように支援する。 | 2-①②③ | | |
| | (3) | 同じ学年の友だちや教師等、人とのかかわりを大切にしながら、集団活動に慣れ、コミュニケーションの基礎を養う。 | あいさつや呼名等、身近な人を意識できるように友だちや教師とのかかわりの場面を多く設定する。また、新しい場所や人とのかかわりに慣れるよう、異学年、異グループでの学習場面を設定する。 | 3-③④ | | |
| | | | 人とのかかわりの基礎を養い、集団生活においてのルールやマナーを身に付けることができるように支援する。 | 3-③④ | | |

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|------|-------|---|--|-------------|-----------------|--|
| 2年 | (1) | 児童一人一人の実態を把握し、個々の実態や課題に応じた、個別学習や集団学習の充実を図る。 | ア 個別の教育支援計画・指導計画、各教科・領域の系統性を踏まえた年間指導計画に基づき、児童の実態や保護者のニーズに応じた指導・支援を実践する。 | 1-①② | | |
| | | イ 各グループ・学年での学習経過や成果を、学年会やケース会で情報交換し、より良い支援方法や課題点について確認し合うようにする。 | 1-①② | | | |
| | (2) | 学校生活のリズムを身に付け、健康で安全な生活を送ることができるようにする。 | ア 登校時や学習時に検温やパルス測定を行い、児童の体調管理に努める。また、聞き取りや連絡帳等で保護者と連携を図りながら、児童の体調を適切に把握し、安全な学校生活が送れるようにする。 | 2-② | | |
| | | | イ 連絡帳や連絡ノート等を通して、保護者や医療機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持増進に努めるようにする。また、医療的ケアや座薬等の健康面については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。 | 2-①② | | |
| | | | ウ 児童が健康・安全に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整えたり、備品の整理整頓を心がけ、安心して学校生活を送ることができるようにする。 | 2-①② | | |
| | (3) | 人とのかかわりを大切にしながら、集団活動に慣れ、一人一人の実態に応じたコミュニケーション能力の基礎を養う。 | ア あいさつや呼名、ふれあい遊び等、身近な人や他学年の友だち、教師とかかわり合う場面を多く設定する。また、興味・関心のある教材・教具のやりとりを通して、相手を意識できるようにする。 | 3-①④ 4-② | | |
| | | | イ 教師が手本となり、挨拶や会話を通して、コミュニケーションの基礎を築けるよう支援する。友だちや教師とかかわりながら、感じたことを表出したり、自分の気持ちを表したりできるよう、教材・教具を工夫やICTの活用をし、発声や身振りを促す支援をする。 | 1-①②③ | | |

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 |
|---|--|--|--------------------|----|-----------------|
| 3年 | (1) 児童一人一人の実態を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。 | ア 個別の教育支援計画・指導計画、各教科・領域の系統性を踏まえた年間指導計画に基づき、児童の実態や保護者のニーズに応じた指導・支援を実践する。 | 1-①②④ | | |
| | | イ 学年会やグループ会で児童の学習の経過や結果について情報交換し、支援方法などの共通理解を図る。また、学習の評価については、記録の工夫と共に児童の学習の様子や次時の課題を明確に示すことで、個々の目標や課題解決に向けた指導を実践する。 | 1-①② | | |
| | (2) 保護者や関係機関との連携を図り健康で安全な学校生活を送ることができるようにする。 | ア 連絡帳や登校時の聞き取り等で、保護者から児童の体調を確認したり、検温や酸素飽和度の測定、表情や発作の様子等の観察、記録を行い、児童の体調を十分に把握し、安全に学校生活を送れるようにする。 | 2-①② | | |
| | | イ 連絡帳や連絡ノート等を通して、保護者や医療機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持増進に努めるようにする。また、医療的ケアや座薬等の健康面については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。 | 2-①② | | |
| | | ウ 児童が健康・安全に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整えたり、備品の整理整頓を心がけ、安心して学校生活を送ることができるようにする。 | 2-①②③ | | |
| | (3) 集団生活の中での人とのかわりを大切にし、一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション能力の基礎を養う。 | ア あいさつや呼名、手遊び歌やふれあい遊び等とおして、友だちや教師を意識できるよう、興味・関心のある教材・教具のやりとりを通して、人とのかわりの場面を設ける。また、なかよしタイムで他学年の教師や友だちとのかわりをもち、交流の充実を図る。 | 1-①② 3-①③④ ⑤ | | |
| イ 友だちや教師とのかわりに応じて感じたことを表出したり、自分の気持ちを表したりできるよう、発声や身振りを促す支援をする。I・II課程の児童に関しては、教師が手本を示し、自分の気持ちを表現できる指導を行う。 | | 1-①② 4-② | | | |

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 |
|--|--|--|---------------------|----|-----------------|
| 4年 | (1) 児童一人一人の実態や障害特性を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。 | ア 複数の教員による情報収集、多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫、学習環境の整備を行う。また、個別面談時には個別の教育支援計画、指導計画について共通理解を図る。 | 1-①② 2-①② | | |
| | | イ 学年会やグループ会で児童の学習の経過や結果、変化について情報交換をし、支援方法等の共通理解を図る。また、記録表の工夫を図り、学習の記録を行う。 | 1-①② 2-①② | | |
| | (2) 保護者や関係機関との連携を図り、健康で安全な学校生活を送ることができるようにする。 | ア 保護者との連携を密にし、連絡帳や登校時の聞き取り等で児童の体調を確認したり、検温や酸素飽和度の測定、表情や発作の様子等の観察、記録を行い、児童の体調を十分に把握する。 | 2-①②③ 4-①② | | |
| | | イ 連絡帳や連絡ノート等を通して、保護者や医療機関と連携を図りながら、児童の身体や健康の様子を把握する。また、医療的ケアや座薬の挿入等については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。 | 2-①②③ ④ 4-①②③ | | |
| | | ウ 児童が健康・安全に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整えたり、備品の整理整頓を心がけ、安心して学校生活を送ることができるようにする。 | 2-①②③ ④ | | |
| | (3) 集団生活の中での人とのかかわりを大切に、一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション能力の基礎を養う。 | ア 集団を意識したり、自分の気持ちを伝えたりすることができるよう、学級活動やⅡ課程Ⅲ課程合同授業を設定したり、エンジョイタイムや学部の行事等において、他学年の友だちや教師とのかかわりの場を多く設定したりする。 | 1-①② 3-①③④ ⑤ | | |
| イ 興味・関心のある教材・教具のやりとり等、友だちや教師とかかわる場面を設定する。教材・教具の工夫やICTの活用をし、発声や身振りを促す支援をする。 | | 1-③ 3-①③④ | | | |

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 |
|--|--|--|----------------------|----|-----------------|
| 5年 | (1) 児童一人一人の障害の特性や発達段階を把握し、個に応じた個別学習や集団学習の充実に努める。 | ア 複数の教員による情報収集、多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫、学習環境の整備を行う。 | 1-②③ 2-①② 3-⑤ | | |
| | | イ 学習の経過や変化について、記録を基に学年会やグループ会で話し合い、支援方法について共通理解を図り学年の教員全員で支援できるようにする。 | 1-①② 2-①② | | |
| | | ウ 個別面談時には、保護者に学校での様子を写真、動画を活用し説明することで、個別の教育支援計画、指導計画について共通理解を図る。 | 1-②③ 2-①② | | |
| | (2) 保護者や関係機関との連携を図り、健康や安全に配慮し、児童の実態に応じた生活習慣の確立を図る。 | ア 健康で安全な学校生活を送れるよう、体調や生活上の変化について保護者との連携を密にする。 | 2-①② | | |
| | | イ 外部専門家や連絡ノートを活用を通して、保護者、関係機関との情報交換を行い、共通理解を図り、指導内容、支援方法の充実を図る。 | 1-①②③ 2-①② 4-④ | | |
| | (3) 集団活動の中で人とかかわりを大切にし、コミュニケーション力を高めることができるようにする。 | ア 学級活動やエンジョイタイム、学校間交流等において、友だちとかかわる場面を多く設定し、集団を意識したり、自分の気持ちを伝えたりすることができるように支援する。 | 3-①③④ | | |
| イ 写真、絵カードや具体物等を活用して自己選択をしたり、表情や発声、動作での意思表出を教師が相手に伝えたりすることで、楽しくコミュニケーションをとることができるように支援する。 | | 1-①②③ 3-①③ | | | |

小学部[学年, 教科・領域] ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| | | | | | | | | |
|----|-----|---|---|---|------------|--|--|--|
| 6年 | (1) | 児童一人一人の実態を適切に把握・評価し、個々のニーズや課題に応じた個別学習や集団学習の充実に努める。 | ア | 個別の教育支援計画・指導計画に基づき、保護者との連携をとりながら児童の実態や教育的ニーズに応じた環境を整える。 | 1-①②③ | | | |
| | | | イ | 児童一人一人の学習の経過や変化等の情報を日常的に交換し合うことで共通理解を図る。児童の課題に向けた授業の内容・新学習指導要領、諸検査などに基づいた系統性を踏まえ、指導・支援を実践する。 | 1-② 3-① | | | |
| | | | ウ | 教材や教具の工夫、ICTの活用などを通して、児童の実態に応じた指導・支援を実践し、自ら学びに向かう力を養う。 | 1-③ | | | |
| | (2) | 保護者や関係機関との連携を図りながら、健康の維持や安全管理に努め、児童が健康で安全な学校生活を送ることができるようにする。 | ア | 家庭や地域、関係機関と連携を図りながら児童の身体の状態を把握し、健康の維持・体力の増進に努める。また、医療的ケアが円滑に進むよう配慮したり、緊急時に備えた対応について実技研修を行い共通理解を図る。 | 2-①② | | | |
| | | | イ | 体調管理ができるように、服薬や日々の食事の様子を把握し、必要に応じて連絡帳や電話連絡を通して保護者と連携する。また、車いす操作、ベッドの点検など、安全面に配慮し、安心して活動に取り組めるように努める。 | 2-①②③ | | | |
| | (3) | 集団活動の中で、人とのかわりを大切にし、児童一人一人に応じたコミュニケーション能力の向上を図りながら、楽しい学校生活を送ることができるようにする。 | ア | 学級活動や係、エンジョイタイムや異学年交流、学部の行事等において、集団の中で友達と協力したり、助け合ったりする活動場面を多く設定する。また、場面に応じた言葉かけや手本などの支援を行うことで、ルールやマナーを意識したり、身に付けたりすることができるようにする。 | 3-② 4-① | | | |
| | | | イ | 人とのかわり方の基礎を養うために、ICT教材を活かしたり、サインの手本を示したりすることで、児童一人一人に応じたコミュニケーション手段を身に着けることができるように支援する。 | 1-② 4-② | | | |

| | | | | | | | | | |
|--------|-----|--|---|--|---|--------------------|--|--|--|
| 各教科の指導 | I | (1) | 児童一人一人の実態に即した授業内容・展開を工夫したり、教材を用意したりして、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができるよう支援する。 | ア | 児童の実態を的確に把握し、体験的な学習を取り入れながら、学習を進めるように努める。また合同で学習する時間を設定することで、他者とのかわり方を身につけられるようにする。 | 1-①② | | | |
| | | | イ | 学習の定着を図るため、プリント、ドリル学習などで繰り返し学習できるようにする。また、学校図書やICT機器を利用した学習を多く行う。 | 1-②③ 3-⑤ | | | | |
| | | | ウ | 定期的に学習の習熟度を確認しながら、既習した学習内容の復習をする。 | 1-② | | | | |
| | | (2) | 安全な学校生活を送るとともに、体力の向上と身の自立を図る。 | ア | 体育や自立活動を通して、健康の維持・増進に努める。 | 2-② | | | |
| | | | イ | 体育や自立活動において、体力の向上や身の自立のための動きの習得や、身体を動かす仕組みについての理解を深める機会を設定する。 | 1-①② 2-② | | | | |
| | | | ア | 児童の実態や学習到達度に合わせ、学習内容を選定したり学習時期の調整を行ったりするなど教科の系統性や領域を考慮しながら、体験的な活動を取り入れたり教材・教具を工夫したりする。 | 1-①②③ 2-①② 3-①③④ ⑤ | | | | |
| | II | (1) | 体験的な活動や様々な学習活動を通して、生活に必要な知識や技能を身につけ、自ら考え行動する力を育てる。 | イ | 自立活動や他の教科と関連付けたり、綿密な打ち合わせを行い教職員の共通理解を図ったりすることで、児童の実態に応じて計画的に学習活動を行う。 | 1-①②③ ④ 2-①② | | | |
| | | | ア | 学校生活全般において、友だちや教師、保護者、来校者の方々とのあいさつを交わす場を大切にするとともに、学習場面や交流給食等においても、多くの人とかかわることができるように、異学年との交流を定期的に設定する。 | 1-②④ 3-①③④ | | | | |
| | | (2) | あいさつや返事など基本的な生活習慣を確立するとともに、周りの人とやりとりする力を培う。 | イ | 児童の実態に応じて、サインや写真、ICT機器、絵カード、シンボルマーク等を活用し、繰り返し学習することで定着を図っていく。 | 1-①②③ ④ | | | |
| | | | ア | 興味関心の幅を広げるために、様々な体験的な活動を設定するとともに、児童の実態を的確に把握して教材・教具を用意し、提示の仕方を工夫する。 | 1-① 1-② | | | | |
| | III | (1) | 体験的な活動を通して、興味関心の幅を広げるとともに、人とかかわりを大切にしながら、気持ちを表現する力を伸ばすなど、個に応じた支援の充実を図る。 | イ | 人とかかわる力を伸ばせるように、授業等で友だちや教師等、様々な人とかかわる機会を多く設定する。また、必要に応じて他学年との交流や合同授業を設定する。 | 1-① | | | |
| | | | ア | こまめに健康観察を行い、教師間で情報を共有して、適切な対応を行う。 | 2-① 2-② | | | | |
| (2) | | 家庭や医療機関等と連携を深め、健康で安全な学校生活を送ることができるようにする。 | イ | 連絡帳や連絡ノートを通して家庭や医療機関との連携を図り、健康で安全な教育活動を行う。 | 2-② | | | | |

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 |
|-----------|--|---|--------------------|----|-----------------|
| 道徳 | (1) 学校の教育活動全体を通じて、道徳的価値(人間らしさ)の自覚を深め、自分の生き方について考えとともに人間としてよりよく生きていくための道徳的実践力を育む。 | ア 道徳的価値の自覚を深めるため、児童の実態や発達、特性に応じ、魅力的で身近な題材を取り入れたり、自己を見つめる機会を作ったりするなど、教材や場面設定の工夫をする。 | 1-② 3-③ | | |
| | | イ 道徳の時間の指導にあたっては、児童が自分への問いかけを深め、自分の未来や希望をもつことができるように話し合い活動や体験的な活動を多く取り入れるようにする。 | 1-② 3-③ | | |
| 特別活動 | (1) 集団生活を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としての意識をもちながら、自分の役割を果たそうとする自主的、実践的な態度を育てる。 | ア 学級活動や専門委員会などの活動において、一人一人の実態や希望に応じて、活動内容や役割を設定し、主体的に活動に取り組めるように支援する。 | 3-①④ | | |
| | | イ 専門委員会やエンジョイタイム、学部行事など、他学年との集団活動の場を積極的に設け、お互いの存在や良さに気付いたり、自分の役割や係の仕事を自主的に行ったりしようとする態度を養っていく。 | 3-①③ | | |
| 自立活動 | (1) 関係機関との連携し、適切で根拠ある自立活動の指導の充実を図る。 | ア 「自立活動を行うにあたって」や「連絡ノート」を保護者との共通理解のもとに活用し、医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)と情報交換を密に行う。個別の指導計画や個々の自立活動メニューの目標や課題の共有を図る。 | 1-①② 4-①②③ | | |
| | | イ 各児童生徒の担当セラピスト等の関係機関との連携を図りながら、必要に応じて、外部専門家(PT, OT, ST)相談を活用し研修を深め、指導の充実に努める。 | 1-①② 4-①②③ | | |
| 総合的な学習の時間 | (1) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる。 | ア 各教科と関連づけながら、様々な体験活動を取り入れたり、友だち・教師、地域の人とのかかわる場を設定する。 | 1-②④ 3-① 4-② | | |
| | | イ 問題の解決や探究活動にあたっては、図書室の活用やパソコン等の情報機器を活用し、自分で調べてまとめることができるよう環境を設定していく。 | 1-③ 3-⑤ | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|------|-------|-------|--|---------------------|-----------------|--|
| 1年 | (1) | ア | 一人一人の障害の特性や実態, 教育的ニーズを把握し, 必要に応じて保護者や関係機関と連携を図りながら, 個別の教育支援計画・指導計画を作成し, 個に応じた指導・支援に生かす。 | 1-①②③ 3-① | | |
| | | イ | 生徒一人一人の指導・支援内容について, 連絡帳や連絡ノート等を活用して, 保護者や関係機関と共通理解を図り, 適切な指導・支援の在り方について連携・確認を取りながら進める。 | 1-①② 2-② 3-①② | | |
| | | ウ | 学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等についての共通理解を図りながら, 日々の授業実践の工夫・改善に努める。(略案の工夫, RPD CAサイクル, 合理的配慮, ICTの活用, T・T指導の充実) | 1-②③ 3-③ | | |
| | (2) | ア | 生徒の健康状態や体調の変化について, 連絡帳などを通して保護者との連絡を密に取り, 必要に応じて養護教諭や看護職員とも連携を図りながら健康の維持に努める。 | 1-② 2-①②③ | | |
| | | イ | 連絡ノートや外部専門家を活用し, 医療機関との連携を図りながら, 一人一人の障害の特性や実態を把握し, 指導上配慮すべき点, 健康の維持, 情緒の安定, 自立活動の課題などについて教職員間で共通理解を図る。 | 1-② 2-①② | | |
| | | ウ | 教室や学習室, 廊下などの環境整備や安全点検を定期的に行い, 生徒が活動しやすい配置等に努めるとともに事故防止のための車いす操作や教室内での移動等危険回避の方法の支援指導を行う。 | 2-①②③ ④ | | |
| | (3) | ア | 教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし, 互いの良さに気付き思いやりをもって活動に取り組める場面を設定する。 | 3-①② 4-①②③ | | |
| | | イ | 進路や福祉関係の情報を教員間で共有し, 保護者への情報提供に努めるとともに, 人のかかわりを広げ, 多様な経験ができる行事や活動への積極的な参加を促し, 支援する。(遠足, 校外学習, 交流及び共同学習など) | 1-② 3-②③ 4-①② | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|------|-------|---|---|--------------------|-----------------|--|
| 2年 | (1) | 生徒の実態や障害の特性、教育的ニーズを的確に把握するとともに、個別の教育支援計画及び指導計画に基づき、個々の課題を達成するために指導・支援内容を工夫し、授業改善に努める。 | ア 一人一人の障害の特性や実態、教育的ニーズを踏まえ、必要に応じて保護者や関係機関との連携を図りながら、個別の教育支援計画や指導計画を作成し、個に応じた指導・支援に生かす。 | 1-①② 3-① | | |
| | | イ 生徒一人一人の特性に応じた指導・支援内容について、連絡帳や連絡ノートを活用して、保護者や関係機関と共通理解を図り、適切な指導・支援の在り方について職員間で共通理解をしながら進める。 | 1-①②③ 2-②④ 3-①② | | | |
| | | ウ 学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等についての共通理解を図りながら、日々の授業実践の工夫・改善をする。(略案作成、RPDCAサイクル、合理的配慮、教材・教具の工夫、ICTの活用、T・Tの充実、支援の在り方) | 1-②③ | | | |
| | (2) | 生徒が健康で安全な学校生活が送れるように環境を整えるとともに、健康の維持、体力の向上、情緒の安定に努める。 | ア 生徒の健康状態や体調の変化について、連絡帳などを通して保護者との連絡を密に取り、必要に応じて養護教諭や看護職員とも連携を図りながら健康の維持や情緒の安定に努める。 | 1-②④ 2-①②③ | | |
| | | | イ 連絡ノートや外部専門家を活用し、医療機関との連携を図りながら、一人一人の障害の特性や実態を把握し、指導上配慮すべき点、健康の維持、情緒の安定、自立活動の課題などについて教職員間で共通理解を図る。 | 1-①② 4-①②③ ④ | | |
| | | | ウ 教室や学習室、廊下などの環境整備や安全点検を定期的に行い、生徒が活動しやすい配置等に努めるとともに、学年会で生徒支援に関する共通理解やヒヤリハット報告・検討を行い危険・事故防止に努める。 | 1-①② 2-①② | | |
| | (3) | 集団活動を通して一人一人の良さに気づき、他者とのかかわりの中で相手を思いやる心を育むとともに、個に応じた社会生活に必要な力の育成とその支援に努める。 | ア 教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし、互いの良さに気づき協力して活動に取り組める場面を設定する。 | 3-①②③ ④⑤ | | |
| | | | イ 進路指導係と連携し、進路や福祉関係の情報収集と保護者への情報提供に努めるとともに、人のかかわりを広げ、多様な経験ができる行事や活動への積極的な参加を促し、支援する。(遠足、校外学習、交流及び共同学習、地域活動など) | 1-② 4-①② | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|------|-------|---|---|------------|-----------------|--|
| 3年 | (1) | 生徒の実態や障害の特性、ニーズを的確に把握し、個別の教育支援計画及び指導計画の充実に努めるとともに、個に応じた指導・支援内容を工夫し、授業改善に努める。 | ア 一人一人の障害の特性や実態を把握し、各自のニーズを踏まえ、必要に応じて保護者や関係機関との連携を図りながら個別の教育支援計画や指導計画を作成し、個に応じた指導・支援を実践する。 | 1-② 2-① | | |
| | | イ 支援目標や指導・支援内容について、連絡帳や連絡ノートを活用して、保護者や医療機関と共通理解を図り、適切な指導・支援の在り方について連携・確認しながら進める。 | 1-② 2-② 4-④ | | | |
| | | ウ 学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等について教員が共通理解を図りながら、日々の授業実践に工夫、改善を加えていくようにする。(略案、授業研究、教材・教具の工夫、ICTの活用、T・Tの充実) | 1-①③ | | | |
| | (2) | 生徒が健康で安全な学校生活を送れるように環境を整えるとともに、健康・体力の維持や情緒の安定に努める。 | ア 生徒の健康状態や体調の変化について、連絡帳などを通して保護者との連携を密に取り、必要に応じて養護教諭、看護職員とも連携を図りながら支援、指導にあたる。 | 2-② | | |
| | | | イ 連絡ノートや外部専門家を活用し、医療機関との連携を図りながら、一人一人の障害の特性や実態を把握する。また指導上配慮すべき点、健康の維持、情緒の安定などの自立活動の課題について教員間で共通理解を図る。 | 2-② 4-③ | | |
| | | | ウ 教室や学習室、廊下などの環境整備や安全点検に努め、学年会でヒヤリハット報告・検討を行い危険・事故防止に努める。また緊急時の対応等を検討し、安全に実施できるよう準備を進める。 | 2-①②③ | | |
| | (3) | 集団生活の中で一人一人の良さを認め合い、思いやりの心を育むとともに、社会参加に必要な力の育成とその支援に努める。 | ア 教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を適宜設定し、生徒同士が協力する楽しさや充実感を味わえるようにする。 | 3-①②③ ④ | | |
| | | | イ 進路、福祉関係の情報収集と保護者への情報提供に努め、進路について考える機会を設定するとともに、多様な経験ができる場や機会への積極的な参加を促し、支援する。 | 4-④ | | |

| 評価項目 | | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | | |
|--------|---|---|---|--------------|--|--|
| 各教科の指導 | I | (1) 各教科の学習において、基礎・基本的な内容の確実な定着を図る。 | ア 年度初めに、担当者間で評価基準や生徒の実態について共通理解を図る。進捗や理解度、指導方法は学部会や学年会で情報交換を行い生徒一人一人の実態に応じた指導の充実を図る。 | 1-①②③ | | |
| | | | イ 各教科、授業時数の確保に努める。 | 1-①② | | |
| | | | ウ 定期的に小テストなどを実施したり、達成段階に応じた課題を出したりして、生徒の理解度や達成度を常に把握し、指導方法の見直しや改善を図る。 | 1-①②③ | | |
| | (2) 個々のニーズに応じた進路選択が行えるよう、適切な進路指導を行う。 | ア 道徳の時間に、自己を振り返ったり見つめたりする時間を設けることで自己理解を深めるとともに、生き方や将来について話し合う機会をもてるようにする。 | 3-③ | | | |
| | | イ 「進路を考える週間」では、職業トレーニング体験や職場見学等、働くことを考えるきっかけとなる体験を取り入れる。また、高等部の実習報告会を参観し、高等部の進路学習のイメージをもてるようにする。 | 3-③ 4-② | | | |
| | | ウ 人とのかわりを多くもつことができるよう、行事的活動などでは普段と異なる集団での活動機会を設けるようにする。 | 3-①②③ ④ | | | |
| | II | (1) 日常生活の中で必要となる課題に対して、基礎的・基本的な学習に系統的に取り組むことで、日常生活に生かせる知識の習得や技能の定着を図る。 | ア 身振り手振りやICT機器の活用など個々に必要とされる課題に継続的に取り組むことによって、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 | 1-①②③ 3-① | | |
| | | | イ 教科ごとに指導者をほぼ固定し、また、学習の記録を生かして、課題内容や支援方法を精選し、個人の実態に合わせた知識・技能の定着を図る。 | 1-①② 3-② | | |
| | | (2) 自分の意見を発表したり、人の意見を聞いたりする経験を通して、場に応じた適切なコミュニケーション能力を身につける。 | ア 学習内容に応じて柔軟なグループ編成を行い、生徒間で意見を交換したり自分の考えを発表したりする機会を多く設定し、コミュニケーション能力を高めるようにする。 | 1-①② 4-① | | |
| | | | イ グループ会等を利用して、教員間で生徒の実態について共通理解をし、生徒の身振り手振りおよび言葉や思いをできるだけ正確に読み取るように努める。 | 1-①② 3-① | | |

| 評価項目 | | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|--|-----|--|--|---|--------------|-----------------|--|
| 各教科の指導 | Ⅲ | (1) | 生活のリズムを整えながら，健康の維持・増進を図る。 | ア 検温，酸素飽和度，脈拍，表情などの健康観察を十分に行い，体調の管理・維持に努める。また，家庭や学部職員，養護教諭，看護職員と情報を共有し，連携を図りながら適切に対応する。 | 2-①② | | |
| | | | イ 外部専門家相談及び連絡ノートや医療相談などを活用して医療機関との連携を図り，自立活動や日常生活全般において身体機能の維持・増進に努める。 | 2-① 4-② | | | |
| | (2) | 人とのかかわりや，様々な学習活動を通して，感情や意思の表出を促す。 | ア 個々の生徒の実態や学習に取り組みやすい環境，教材・教具の提示方法などの支援方法について共通理解を図ることで，生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。 | 1-①③ | | | |
| | | | イ 五感を刺激する活動や運動，音楽を多く取り入れるなど活動を工夫することで，興味・関心の幅を広げるとともに，快・不快等の自発的な表出を促すために，支援の方法や教材・教具の工夫をする。 | 1-①③ | | | |
| | | | ウ 他者とのかかわりを深めることができるように，場面の設定や学習内容，学習形態を工夫する。 | 1-①③ 3-①④ | | | |
| | 道徳 | (1) | 生徒の実態を踏まえ，道徳の時間を主要としながら，学校の教育活動全体を通じて，道徳的な心情，判断力，実践意欲や態度などの道徳性を養う。 | ア エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの手法等を取り入れ，体験的に感じ取り，学び合えるような機会を設定する。 | 1-①② 3-①③ | | |
| イ 学校生活を通して，道徳的価値について考えを深めたり，意見交換したりできるようにする。 | | | | 1-③④ 3-③ | | | |
| (2) | | 各教科，総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を図りながら，道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深め，道徳的実践力を育成する。 | ア 学校行事での様々な生活経験を通して，生徒の多様な活動場面をとらえ，「相手を尊重する」，「礼儀やマナーを理解する」，「社会の一員としての役割と責任を自覚し，ルールを守る」等の道徳的実践力を育成できるようにする。 | 1-①② 3-③ 4-① | | | |
| | | | イ 地域交流や学校間交流，児童生徒会活動等を通して，社会の一員としての自覚を深めるとともに，自分の役割を考えたり，振り返ったりできる機会を設定する。 | 1-② 3-①③ 4-③ | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 |
|-----------|--|---|---------------------|----|-----------------|
| 特別活動 | (1) 集団活動を通して、集団の一員として、協力して活動を行う。 | ア 専門委員会や全校集会、学年・学級の活動を通して、他学部や他学年の児童生徒等、様々な人と一緒に行う活動場面を各グループで連携しながら設定し、協力して行えるように支援する。 | 1-①② 3-③ | | |
| | | イ 話し合い活動を取り入れたり、生徒の実態に応じたコミュニケーション方法を工夫したりすることで、積極的なコミュニケーションを行うことができるようにする。 | 1-①② | | |
| | (2) 様々な人たちとの交流を通して、社会性や協調性を育む。 | ア 中学部において、交流活動を行う機会を積極的に設定し、早期に計画を行って円滑に行えるようにする。 | 3-①④ 4-② | | |
| | | イ 様々な人とコミュニケーションを図ることができるよう、生徒の実態に応じた参加方法や参加回数、交流の場の設定などを工夫する。 | 1-①② 3-①④ 4-② | | |
| 自立活動 | (1) 関係機関との連携を深め、根拠に基づいた指導の充実を図る。 | ア 「PEDI&ICFチェックリスト」から導かれる関連図を活用して、個別の指導計画や教育支援計画、指導計画に基づいた自立活動のメニューの作成に役立てる。 | 1-①② 2-①② | | |
| | | イ 連絡ノートを積極的に活用して、医療関係者(Dr,PT,OT,ST等)と情報交換や目標の共有を図り、個々の課題解決や指導の充実に努める。 | 1-①② 2-② 4-③ | | |
| | | ウ 学年のニーズを把握し、リハビリ相談、小児リハビリテーションネットワーク会議のケース会議等を活用して関係機関との連携を図り、指導の充実に努める。 | 1-①② 2-② 4-③ | | |
| | (2) 肢体不自由特別支援学校の教職員としての専門性を高め、キャリア教育の視点に立った自立活動の長期的指導の充実を図る。 | ア 外部専門家相談でのPT,OT,STからの助言等を、自立活動や日常生活の指導に活かし、長期的なスパンの課題設定に役立て、個々の課題に合わせた自立活動や授業の改善・充実に努める。 | 1-①② 2-② 4-③ | | |
| 総合的な学習の時間 | (1) 総合的な学習の時間の指導計画の改善・充実に努める。 | ア 各教科や道徳と関連付けながら、発達段階や系統性を意識した内容を精選し、指導・計画・授業実践に努める。 | 1-①② 3-③ | | |
| | (2) 協同的な活動や探究的な活動を通して自己の生き方を考える学習となるよう内容の充実に努める。 | ア 学校間交流や花いっぱい活動等を通して、同年代の中学生や地域の方と積極的にふれあい、社会性を身につけられるようにする。 | 3-①④ 4-② | | |
| | | イ 進路を見据えた活動や体験的な学習を設定し、活動を通して自己理解を深め、将来の進路について自ら学び考える態度を育てる。 | 1-② 4-② | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 |
|---|---|---|----------|----|-----------------|
| 1年 | (1) 生徒一人一人の学習面・生活面の課題を的確にふまえ、学習内容、指導方法の工夫・改善を図る。 | ア 生徒・保護者のニーズを確認しながら個別の教育支援計画を作成し、個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図る。 | 1-②③ | | |
| | | イ 学習活動、特に自立活動の指導においては、より実態に応じた指導内容と方法を工夫し、授業の改善に努める。また、生活上の課題についてもアチーブメントシートを用いて教員間で共通理解を図り、手立ての工夫・充実を図る。 | 1-② | | |
| | (2) 健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い、体力と身体機能の維持・向上を図るとともに、自己肯定感を育み他者を思いやる豊かな心の育成に努める。 | ア 教室、グループ室、廊下などの生活環境の整理整頓や清掃を心がけ、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。 | 2-① | | |
| | | イ 保護者や関係諸機関との連携のもと、学校生活における健康・安全面の問題を明確にし、体力と身体機能の維持・向上に努める。 | 2-①② | | |
| | | ウ 他者とかかわることができる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え、自己選択、自己決定できるような場面を設定する。 | 3-①③ | | |
| | (3) 生徒一人一人の進路想定をふまえ、卒業後の社会参加に必要な態度や技能の育成に努める。 | ア 生徒、保護者のニーズを確認しながら、進路指導上の課題を明らかにし、その課題を進路体験実習、作業学習、その他の学習の中で解決できるよう取り組み方と手立てを考えていく。 | 1-② | | |
| イ 生徒の実態に応じた、就労や福祉施設等の情報提供を行うことにより、実態に合った進路想定を導けるように努める。 | | 1-② | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | | | | |
|------|-------|--|---|---------------------|--|--|--|
| 2年 | (1) | ア | 生徒・保護者のニーズを確認しながら個別の教育支援計画を作成し、個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図る。 | 1-①② 3-①② | | | |
| | | イ | 学習活動、自立活動の指導においては、実態に応じた内容と指導方法を工夫し、授業の改善に努める。また、生活上の課題についてもアチーブメントシートを用いて教員間で共通理解を図り、手立ての工夫・充実を図る。 | 1-①②③ 3-①②③ | | | |
| | (2) | ア | 保護者や関係諸機関との連携のもと、学校生活における健康・安全面の問題を明確にし、体力と身体機能の維持・向上に努める。生徒の健康状態を把握するため、必要に応じてバイタルチェックをして健康に対しての意識を高める | 1-①② 2-② 3-①② | | | |
| | | イ | 掲示物等生徒の視点を配慮し、教室、グループ室、廊下などの生活環境の整理整頓や清潔を心がけ、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努めるとともに生徒への清潔意識の向上に努める。 | 2-①②③ | | | |
| | | ウ | 他者とかかわることができる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え、自己選択、自己決定できるような場面を設定する。 | 1-①② 4-①② | | | |
| | (3) | ア | 生徒、保護者のニーズを確認しながら、進路指導上の課題を明らかにし、その課題を進路体験実習、作業学習、その他の学習の中で達成できるような具体的な取り組み方と手立てを考えていく。 | 1-①② 3-①② | | | |
| イ | | 生徒の実態に応じた福祉サービスの活用を促したり、福祉施設等の情報提供を行ったりすることで、実態に合った進路想定に導けるように努める。 | 1-①② 4-①② | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|------|---|--|--------------|----|-----------------|--|
| 3年 | (1) 将来の生活を踏まえ、自立や社会参加を図るために指導内容を検討し、進路指導に関する支援の充実を図る。 | ア 生徒、保護者のニーズを確認しながら個別の指導計画を作成し、自立や社会参加に向けて身に付けたい力を明確にする。進路体験実習を適切に実施し、必要に応じて進路面談などを行い、進路決定ができるようにする。 | 1-①② | | | |
| | | イ 生徒一人一人の目標達成に向け、指導内容や方法について探求し、教員間の共通理解のもとでキャリア教育の充実を図る。 | 1-② | | | |
| | (2) 健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い、生徒の健康や体力の維持・増進に努める。 | ア 生徒、保護者のニーズや意見を反映させながら、個別の教育支援計画を作成し、個に応じた指導、手立ての充実を図る。日常の観察などを通して一人一人の実態を的確に把握して指導にあたる。 | 2-②④ 4-③ | | | |
| | | イ 保護者や関係機関と連携を図りながら、一人一人の障害特性や実態把握を行い、指導上配慮すべき点、健康の維持、情緒の安定などについて教員間で共通理解するとともに、より実態に即した指導内容と方法を工夫し、授業の改善に努める。 | 1-④ | | | |
| | (3) 自己肯定感を育み、他者とのかかわりを楽しむ豊かな心の育成を図る。 | ア 学校生活において、生徒の実態に応じた支援を行うことで成功体験を積み重ね、自信と主体的に生きようとする意欲とを持たせ、自己選択・自己決定できるような場面を設定する。 | 1-①② 2-①② | | | |
| | | イ 交流や部活動、各種大会、文化祭などをおして他者とかかわりをもてる機会を設定し、学年の一員として各自がもてる力を発揮できるよう促す。 | 3-①② | | | |

| 評価項目 | | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|--------|----|-------|-------|---|---------------|-----------------|--|
| 各教科の指導 | I | (1) | ア | 生徒や保護者の進路希望を尊重し、進路指導部や関係機関との連携を図りながら、進路に関する情報提供を行う。また、生徒一人一人の進路課題に応じた体験的・実践的な学習を行うことで、生徒自身が課題を意識しながら主体的に進路選択できるように支援する。 | 1-①② 2-② | | |
| | | | イ | アセスメントに基づき、教職員の連携を図りT、Tの充実に努める。また、ICTを適切な活用して個に応じた学習の支援方法を工夫し、基礎学力の向上に努める。 | 1-③④ | | |
| | | (2) | ア | 豊かな生活が送れるよう自分の健康管理に留意するとともに、行事や学年活動・部活動において活躍できる場を設定し、様々な活動への主体的な取り組みを促す。 | 2-①② 3-①②④ | | |
| | II | (1) | ア | 基礎的な学力や知識の定着を図るために、高等部で身につけたい力から指導内容を検討し、内容の精選、実態に合った改善をしながら学期を超えて各教科や単元の関連性を持たせた体験的・かつ実践的な指導内容の厳選や授業改善を図る。 | 1-①② | | |
| | | | イ | 話し合いや他者とのかかわり、自己決定する場、自分の気持ちの表出等実践的な場面を多く設定したり、繰り返し学習を行ったりすることで定着を図る。 | 1-② | | |
| | | | ウ | 場に応じた言葉遣いを身につけるためにロールプレイを多く設定する。また、簡単なサインをや身振り手振りを使ったり、ICT機器を活用したりする等、実態に応じた支援を工夫する。 | 1-①③ | | |
| | | (2) | ア | 個別の指導計画で設定した支援内容を学習へ反映させたり、進路指導主事との連携や外部講師、地域の人材を積極的に活用して想定される進路に応じて学習内容を精選したりする。 | 1-①② 4-② | | |
| | | | イ | 授業ごとの目標を略案等を活用し、授業ごとの生徒の個々のねらいを明確にしたり、授業の記録を行ったりすることで、次の授業に活かせるよう教員間で連携して評価・改善していく。 | 1-①② | | |

| 評価項目 | | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|--------|-----|-------|---|--|---------------------------------------|-----------------|--|
| 各教科の指導 | Ⅲ | (1) | ア | 健康観察や健康を維持するための水分補給、検温、血中酸素飽和濃度や脈拍の測定等を行う。 | 2-①② | | |
| | | | イ | 朝の会やトイレ・水分補給等、毎日の生活を規則正しく行い、生徒自身が生活リズムを意識できるようにする。 | 2-①② | | |
| | | | ウ | 教師間の情報交換を密に行うとともに、家庭・医療機関においても連絡帳や連絡ノート等で連携を図り、個々の支援に活かすように努める。 | 1-① 4-②③ | | |
| | | (2) | ア | 生徒一人一人のコミュニケーション手段を観察し、生徒の反応を読み取るように努める。 | 1-② | | |
| | | | イ | 生徒自らの主体性や気づきのような感情や意思の表出を図るため、場の設定や教材教具の工夫を行う。 | 1-①② | | |
| | | | ウ | 様々な友だちや教師と関わるができる場の設定を行い、変化に対しても見通しをもって安心して取り組めるように生徒の実態に応じて適切な配慮、支援に努める。 | 1-①② 2-①② | | |
| | (3) | ア | マッサージ、ストレッチ、運動等を行い、身体機能の維持・向上に努める。 | 2-①②③ | | | |
| | | イ | 感覚や身体に働きかけるように、五感を刺激する活動や運動、音楽的な活動などを取り入れる。 | 1-① 4-② | | | |
| | 道徳 | (1) | 社会生活を送るうえで必要とされる道徳的な規範やモラル、人とかかわるスキルについて考えることにより、よりよい社会人となる自分を意識することができ、実践する力を養う。 | ア | 「高等学校道徳教育指導資料」茨城県教育委員会発行の内容に沿った指導を行う。 | 3-③ | |
| イ | | | | 社会生活で必要とされる道徳的な規範やモラル、人とかかわるスキルを身に付け、実践できるようにロールプレイを行ったり、コーチングをしたり即自評価を行い、生徒自身が振り返りができるように努める。また、地域交流や学校間交流、児童生徒会活動等を通して、社会の一員としての自覚を深め、自分の役割を考えたり、振り返ったりできる機会を設定する。 | 3-①③④ | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 |
|------|---|--|--------------------|----|-----------------|
| 特別活動 | (1) 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 | ア 児童生徒会、特別委員会など他学部の児童生徒との活動や文化祭に向けての学年での話し合い活動を積極的に行えるように支援する。 | 1-①② | | |
| | (2) 集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 | ア 他校の生徒や地域の人々との交流活動の際には、障害特性や生徒個々の実態に応じて、支援する。 | 1-② 3-①② 4-② | | |
| | (3) 人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。 | ア 生徒の障害の状態や特性、生活経験の程度等を考慮し、進路指導や総合的な学習との関連を図りながら指導内容を厳選する。 | 1-① 3-③ | | |
| 自立活動 | (1) 適切で根拠ある自立活動や日常生活における指導ができるように、関係機関との連携を図る。 | ア 保護者との共通理解をもとに、連絡ノートを通じ医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)と情報交換し目標設定や課題、指導内容の共有を図る。 | 1-①④ | | |
| | | イ 必要に応じて自立活動相談、医療相談、小児リハネットワーク会議のケース会議、ソーシャルワーカーとの支援相談等を活用しつつ、関係機関との連携を図りながら指導の充実に努める。 | 2-② 4-③ | | |
| | (2) 肢体不自由特別支援学校の教職員としての専門性を高め、キャリア教育の視点に基づいた自立活動指導の充実を図る。 | ア 医療関係者(Dr, PT, OT, ST等)の助言をもとに、卒業後の生活を意識した自立活動メニューの作成・活用を促し、指導に生かす。 | 1-①④ 4-③ | | |
| | | イ 外部専門家相談でのPT,OT,STからの助言等を自立活動や日常生活における指導に生かし、卒業後の生活を意識しながら、自立活動や授業の改善・充実に努める。 | 1-①④ 2-② 4-③ | | |

高等部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|-----------|-------|---|---|------|-----------------|--|
| 総合的な学習の時間 | (1) | ア 将来の自立と社会参加を見越し、自ら学び、考え、主体的に判断しようとする態度を育てるとともに、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方や生き方を肯定的・発展的に考えることができるようにする。 | 将来の自立につながる体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れ、自ら学び、考え、主体的に判断しようとする態度を育てる。また、主権者教育については生徒の実態に応じた内容の充実に努める。 | 1-②④ | | |
| | | イ | 交流及び共同学習や集団活動の場面で、まわりの人との意見交換や交流活動等、他者と協同して課題を解決しようとする活動や、まとめたり表現したりして自分の考えを深める活動を多く取り入れ、学び方やものの考え方を身につけられるようにする。 | 3-① | | |
| | | ウ | 様々な場面で、体験的活動や個人の活躍の場を多く取り入れることにより、互いの良さに気づいたり尊重したりする気持ちを育て、成就感や協同の楽しさを味わえるようにする。 | 3-①③ | | |

訪問教育〔教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 課題及び次年度(学期)への改善 | |
|------|-------|-------|--|------------------------------|-----------------|--|
| 自立活動 | (1) | ア | 拘縮予防などのために、顔や手足のマッサージ、関節の曲げ伸ばしなどを、できる範囲で実施する。(必要に応じてリハビリ見学や、連絡ノートのやりとりなどを行う。) | 1-①② 2-①②③ | | |
| | | イ | 教師とのかかわりの中で、快・不快を含めた自分の意思を表情や身体の動きで表出することができるように、五感に働きかけるような教材教具の工夫をする。また、コミュニケーションの仕方を工夫し、意思の表出を促す。(ICT機器の利用など) | 1-①②③ 2-①② 3-③ 4-③⑤ | | |